

一般質問、
厚生産業委員会のご報告
任期前半を振り返って

原 ゆき

通信

令和6年夏号



こんにちは、原ゆきです。2024年第2回定例会が閉会し、任期4年の折り返しとなりました。
今議会の最終日には議長、副議長選挙が行われたり、新常任委員会が決定したりしました。
私は来議会から文教委員会に所属することが決定し、今議会では厚生産業委員会ですと注視
してきた産後ケアの質問なども行いました。残り任期2年間もご注目いただければ幸いです。

子どもたちの 主体性を支える学校教育を!



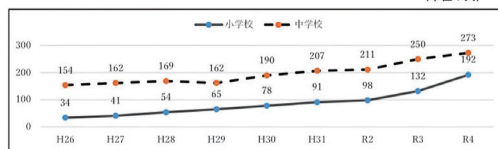
一般質問を
行いました!

不登校児童・生徒の出現率

	国	東京都	立川市
小学校	1.70%	1.73%	2.29%
中学校	5.98%	5.73%	7.25%

全国では2023年公表時点で29万人と報告されており過去最多を更新している
不登校の児童生徒数。その**出現率は表のように国、東京都よりも高い割合になって
いる立川市**。教育の機会確保法の観点からも、集団での学校生活を送ることが
難しい子どもたち、そのご家庭へのケアをしっかりと行い、不登校支援の拡充を図る
ことが急務であると考えています。

立川市の不登校児童・生徒数の推移 (単位:人)



(※不登校児童・生徒とは、年度内に30日以上登校しなかった者)
引用: 2023年第4回定例会文教委員会報告資料より

不登校支援についての質問 : 1

立川市の不登校支援としては、学校
への復帰を最終的な目的としている
のか?



立川市からの回答

不登校の要因は複雑多岐にわたって
いるため、児童生徒一人ひとりの状況
や周りの環境等を丁寧に把握し、その
子どもにとってより適切な支援をし
ていくことが大切である。市として不
登校の児童生徒に対し、一律に学校へ
の復帰を目的としていることはない。

不登校支援についての質問 : 2

教育支援センター「おおぞら」は保護
者同伴でないと通えない、「たまがわ」
は住んでいる地域によってはその立
地面から通にくい等利用者からみ
た課題についての見解は?



立川市からの回答

教育支援センターを利用したいと考
える児童生徒や、その保護者のニーズ
に柔軟に対応していくとともに、校内
別室での支援を充実させ、教育支援セ
ンターだけでなく、学区内の場所で適
切な支援を受けることができるよう
にしていく。

不登校支援についての質問 : 3

発達特性や二次障がいなどで、公的な
支援を利用したくてもできない児童
生徒に対しては、どのような支援をし
ているのか?



立川市からの回答

学校や教育支援センター等につな
がっていない児童生徒やその保護者
に対する支援として、市に配置してい
るスクールソーシャルワーカーの派
遣による対応を実施している。



立川市が行っている不登校児童・生徒への応援



教育支援センターの設置

学校に行きづらさを感じる
子どもたちの居場所です
「おおぞら」(小学生対象)
「たまがわ」(中学生対象)

校内別室指導支援 配置事業 (東京都との連携)

教室以外の場所でも
支援が受けられます
昨年1校が、**今年6校に拡充!**

バーチャル・ラーニング・ プラットフォームの活用

仮装空間でコミュニケーション
したり授業に参加したり!
今年からの新たな取り組み!

ESD (持続可能な開発のための教育) で 子どもたちの声を社会へ

「多摩市子どもみらい会議」の取り組みを紹介。
立川市でも部署の横の連携をもって、子ども
たちの声をまちづくりや政策に取り入れる
方策について前向きに検討してほしいと求
めました。

子ども選挙の取り組みについて

若者の低投票率について、主権者教育の必要
性を強調。東京都選挙管理委員会で行ってい
る「模擬授業」「出前講座」を必要に応じて情報
共有していただけることになりました。

今回の質問で原ゆきが求めたこと

- ◆ フリースクールへの参加も幅広く出席として認めてほしい
- ◆ 公設民営のフリースクールや学びの多様化学校などの設置を検討してほしい





未就園児家庭の居場所や 子育てひろば利用について

子育てひろばや子育てイベントなど情報の一元化、立川市公式LINEや地域情報誌の活用等による可視化で、市民にとって見やすく分かりやすい情報発信を求めました。

水遊びのできる公園で 暑い夏を乗り切るために



今年の夏水遊びできる公園

見影橋公園、諏訪ノ森公園

今年の夏水遊びできない公園

柴崎体育館近くの霧の広場(リニューアル工事)、

大山公園・上砂公園(使用している大山団地内の井戸から暫定目標値以上のPFOSの数値が検出されたため、現在通水を停止。11月頃に水質調査の予定があり、調査結果を踏まえて今後の方向性を検討)

厚生産業委員会のご報告

Thema
01

学童保育所の待機児童数と 待機児童対策の現状について

市内には学童の待機児童が10人以上いる学区が11あります。一番多い地域ですと、40人以上が待機しており深刻です。一方で、地域によっては募集人数に満たない学童もいくつかあります。文京区では定員割れしている学童から空きのある学童へ、学童スタッフが同乗し区の予算で無料のタクシー送迎を行っている例があります。待機児童が多く、くるプレも未導入の地域については負担が多く、こういった事例も参考にすべきと提案しました。

Thema
02

産後ケア事業について



6月からいよいよアウトリーチ(助産師居宅訪問)型の産後ケアが開始!実施機関は「まんまる助産院(若葉町)」「Hope助産院(錦町)」です。

6月5日から利用申請を開始していますので、利用をご希望される方は、ホームページのLoGoフォームからお申込みください。宿泊型・通所型と異なり、訪問型については、「援助を受けられない、または体調不良や授乳・育児不安のある方」などの利用条件なく、どなたでもご利用いただけます!

任期前半を振り返り、みなさまへ



初当選からこの2年間、市内の様々な会合やイベントにお招きいただき、初めての体験の連続でした。多摩地域初のオンライン委員会出席でお世話になった第二子共々、子どもたちも地域の皆さまに見守られすくすく成長しております。

任期後半では、2025年から10年間の市政運営の指針となる、「立川市第5次長期総合計画」が策定、スタートする大事な局面を迎えます。どんな議論や学びがあるか、まちづくりがどう進んでいくか。どのテーマであっても、中心にはいつも地域があって、そこにいる一人ひとり、子どもたちを含む市民が大切にされなければならないと考えておりますので、引き続き皆さんのお声をお寄せください。



発行責任者 原ゆき事務所

〒190-0001 立川市若葉町1-3-1-408

tel:070-9008-7455 Fax:050-3488-7544 mail:harayuki0802@gmail.com

プロフィール

1987年生まれ36歳。元小学校教員。長妻昭衆議院議員元秘書。

若葉小/立川九中/錦城高校/都留文科大学卒。夫、子2人(4歳、1歳)と共に若葉町在住。

ホームページ「お問い合わせ」フォームから
皆さまのご意見お寄せください!

SNSで日々の活動を発信しています!

<https://harayuki.com/>

